コースコード：RH-EX210
税込価格：55,000円 (税抜価格：50,000円)
日数：1日間

前提条件

Red Hat 認定システム管理者であるか、同等の実務経験とスキルがあること Red Hat OpenStack Administration I: Core Operations for Domain Operators (CL110) および Red Hat OpenStack Administration II: Day 2 Operations for Cloud Operators (CL210) コースを受講済みである、または Red Hat OpenStack Platform を使用した同等の実務経験があること Red Hat 認定スペシャリスト試験 - Cloud Infrastructure - (EX210) の内容を確認していること

受講対象者

OpenStack
ベースのクラウド・インフラストラクチャを管理するシステム管理者またはシステムオペレーター
Red Hat 認定アーキテクト (RHCA) を目指す Red Hat 認定エンジニア (RHCE)

コース概要

Red Hat 認定スペシャリスト試験 - Cloud Infrastructure - (EX210) では、Red Hat® Enterprise Linux® および Red Hat® OpenStack Platform を使用してプライベートクラウドを作成、構成、管理するために必要なスキル、知識、能力をテストします。この試験は、機能的な Red Hat OpenStack Platform クラスタを維持し、日々の運用を管理するために必要なタスクに焦点を当てています。

この試験に合格すると、Red Hat 認定アーキテクト (RHCA®) を取得する際の前提条件となる Red Hat 認定スペシャリスト - Cloud Infrastructure - を取得できます。

この試験は、Red Hat OpenStack Platform 16.1 に基づいています。

目的

Red Hat 認定スペシャリスト - Cloud Infrastructure - に合格する

アウトライン

Red Hat 認定システム管理者 - Red Hat OpenStack -
を取得するには、以下のタスクを実行する能力を有することを実証します。

Red Hat OpenStack Platform コントロールプレーンの管理
コントロール・プレーン・サービスを管理する
コントロールプレーンのバックアップと復元を行う
オーバークラウドを起動および停止する

インフラストラクチャのセキュリティの管理
エンドツーエンドのセキュアなサービスを管理する
AIDE でファイルベースのコンポーネント・セキュリティを管理する

ユーザーセキュリティの管理
・統合された IdM のバックエンド構成を管理する
・スコープ付きサービスのアクセスを管理する

・プロジェクト編成を管理する
・クライアント編成向けの Red Hat OpenStack Platform ドメインを作成する
・トークンキーを維持する
・ユーザーロールをカスタマイズする

アプリケーション・デプロイメントのリソースの管理
・イメージとフレーバーを作成する
・イメージを作成およびカスタマイズする
・デプロイ中にインスタンスを初期化する

Red Hat OpenStack Platform のストレージの管理
・Red Hat OpenStack Platform 専用の Ceph ストレージクラスタを管理する
・Red Hat OpenStack Platform でストレージの選択を実装する
・Ceph ストレージクラスタを管理する
・ストレージ・インフラストラクチャを構成する
・Swift ストレージを管理する

ネットワークの管理
・Open Virtual Networking (OVN) サービスを構成する
・共有ネットワークを作成および管理する

コンピュートノードの運用の管理
・コンピュートノードを管理する
・コンピュートリソースの容量を管理する
・ハイパーコンバージド・リソースの容量を管理する
・コンピュートノードのワークロードのリバランスを行う

運用の監視
・サービス・テレメトリ・フレームワークを実装する
・Red Hat OpenStack Platform サービスとコンポーネントのロギングのフローを理解する

クラウド・アプリケーションのデプロイメントの自動化
・大規模なアプリケーション・デプロイメントを管理する
・Heat オーケストレーション・テンプレートを作成する
・Ansible を使用してアプリケーションをデプロイする
・負荷分散されたアプリケーションスタックを作成する

運用のトラブルシューティング
・問題を診断する
・よくある主要な問題のトラブルシューティングを行う
・Heat スタックイベントを追跡し、障害のトラブルシューティングを行う

Red Hat のすべての実技試験と同様に、再起動後も自動で設定が維持されるようにする必要があります。